

○計画期間：平成26年4月～平成31年3月

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成26年度終了時点(平成27年3月31日時点)の中心市街地の概況

平成26年度からスタートした第2期計画は、第1期の「人々の交流によるにぎわいの回復」「環境に配慮し、安心安全な暮らしの実現」という二つの目標に加え「地域の魅力再発見による文化的な暮らしの創造」を加えた三つの目標を設定し、これらの目標達成のための事業を展開してきた。計画に基づく具体的事業は全部で60あり、このうち初年度に取り組むべき44の事業に着手、実施してきた。おおむね計画通りに推移している。

平成26年11月には空店舗を活用した「並木横丁いこいこ」がオープンして新たな賑わいを見せており、一方、飯田市立動物園は、平成26年度の入場者数が開園以来の最高記録を更新するなど、中心市街地のにぎわいに大きく貢献した。

平成26年度に「第17回2014年『まちの活性化・都市デザイン競技』」を飯田駅とその周辺地域をテーマに募集したところ、32作品の応募があった。多くの力作が寄せられ、特に受賞作品は、今後のリニア新時代を踏まえた中心市街地のまちづくりに参考となる提案であった。平成27年度に飯田市長特別賞の授賞式と国土交通大臣賞をはじめとした受賞者を招いてシンポジウムを行う予定。

歩行者優先道路活用事業として実施しているゆるキャラ[®]天国や竹宵祭り、人形劇のまちづくり推進事業である飯田丘のまちフェスティバルなど、りんご並木を中心に展開している様々なイベント、事業も徐々に根付いてきており、来場者数も増加傾向にある。平成27年3月には、菱田春草生誕地公園がオープンし、橋北地区で進んでいる「橋北まるごと博物館推進事業」が更に発展していくきっかけとなっている。その他にも、地域ミュージアムを活かしたまちづくり事業の一環で進めている「桜並木とまちづくりを考える懇談会」、飯田駅前・中央通りの商店街で実施した「高校生ウィンドウ作品展」など、新たな人々の交流の場を創出する様々な活動を展開してきた。

2. 平成26年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

リニア中央新幹線の長野県駅が郊外に設置される当地域では、リニア駅周辺には新たな都市機能の集積はせず、広域交通拠点としての限定的な機能を整備することとしており、中心市街地は引き続き当地域の中心拠点であり続けることが確認されている。

第2期飯田市中心市街地活性化基本計画は、来るべきリニア時代に向けて中心市街地の魅力を高め、ひいては飯田市及び南信州圏域全体のポテンシャルを高めるためにも重要な計画といえる。

平成26年度は計画の初年度であり、様々な事業に着手し目標値を達成する項目もあるなど順調に進行していると言える。

特に、飯田市民の心のシンボルでもある「りんご並木」については、ソフト・ハードとも充実した取組を行っており、賑わいの創出に貢献している。

ただし、歩行者天国などのイベントでは大きな集客があるが、日常における中心市街地への来訪者や歩行者がまだまだ少ない状況である。

このため、引き続き誘客性、回遊性を高める取組に努められたい。

また、計画では中心市街地の将来像をつくり上げていくための拠点として、りんご並木のほか、「飯田駅周辺」「橋北地区（仲ノ町周辺）の歴史的街並み」「並木通りと中央公園がつくり出す緑のネットワーク」「並木通りと中央公園が交差する周辺」を位置付けている。

このうち特に郊外リニア駅と有機的につながる飯田駅周辺と、菱田春草生誕地記念公園の取組をはじめとして地域住民によるまちづくりが活発な橋北地区（仲ノ町周辺）については、りんご並木同様より積極的な取組を進められたい。

さらに、平成 26 年度に開園以来最高の来場者数となった飯田市立動物園からのまちなか回遊を促す取組を強力に進められたい。

Ⅱ. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値 (H24年)	目標値 (H30年)	最新値 (H26年)	前回の 見通し	今回の 見通し
人々の交流による にぎわいの回復	歩行者・自転車通行量 (土曜日)	7,500 人/日	8,600 人/日	8,604 人/日	—	①
	歩行者・自転車通行量 (平日)	9,300 人/日	10,300 人/日	9,916 人/日	—	①
地域の魅力再発見に よる文化的な暮らし の創造	文化・交流施設の 利用者数(年間)	264,000 人/年	290,000 人/年	297,341 人/年	—	②
環境に配慮し、安心 安全な暮らしの実現	中心市街地における 都市福祉施設の 利用者数(年間)	112,000 人/年	123,000 人/年	110,107 人/年	—	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」については、11月にオープンした「並木横丁いこいこ」がオープンしたことや、電気小型バス「プッチー号」の運行事業などにより街中を訪れる人が増えたことで、通行量が徐々に増えつつある。

「文化・交流施設の利用者数」については、全体の総数としては目標値を上回ったが、これは動物園が過去最高の入場者数を記録したことによる底上げからきている。その他の施設を見ると、飯田市立中央図書館は前年並みだが、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館は、計画に基づいた事業を展開してきているが前年比1割程度減少した。

「都市福祉施設の利用者数」については、民間経営施設の利用者数が徐々に増加しており、公共施設も前年対比減となっている施設もあるが前々年以前と比較すれば徐々に増加しており、今後も計画に基づいた事業展開で増加が見込まれる。

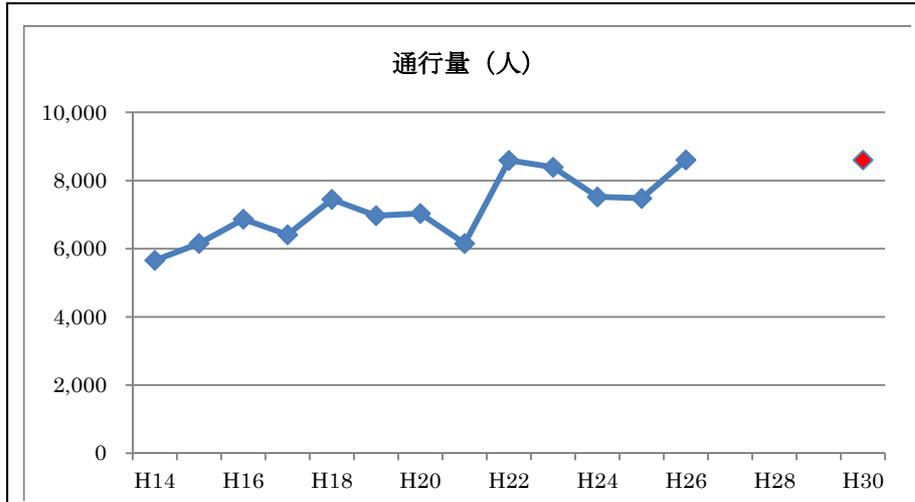
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

計画の初年度のため、前回フォローアップなし。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

●調査結果の推移（人々の交流によるにぎわいの回復）

「歩行者・自転車通行量（土曜日）」※目標設定の考え方基本計画 P98～P101 参照



年	(単位：人／日)
H24	7,500 (基準年値)
H26	8,604
H27	
H28	
H29	
H30	8,600 (目標値)

※調査方法：計画地点での調査員による通行量調査

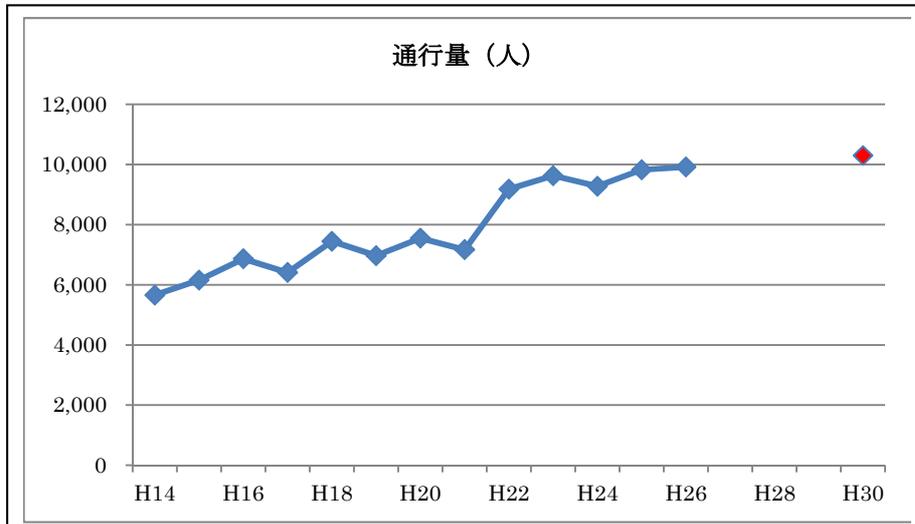
※調査月：10月

※調査主体：飯田市

※調査対象：歩行者及び自転車 土曜日4地点

(駅前中央通り、りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目)

「歩行者・自転車通行量（平日）」※目標設定の考え方基本計画 P102～P104 参照



年	(単位：人／日)
H24	9,300 (基準年値)
H26	9,916
H27	
H28	
H29	
H30	10,300 (目標値)

※調査方法：計画地点での調査員による通行量調査

※調査月：10月

※調査主体：飯田市

※調査対象：歩行者及び自転車 平日4地点

(駅前中央通り、りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目)

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 飯田駅周辺及び駅前ストリート事業（事業主体名：飯田市、飯田観光協会、JR東海）

事業完了時期	平成30年度【未】
事業概要	交通の結節点である飯田駅のまちなか誘客拠点としての機能、駅前周辺及び駅前ストリートの観光情報案内所、店舗等誘客施設、駐車場、駐輪場、トイレ等を総合的に整備する事業。
事業効果及び進捗状況	リニア中央新幹線の開通を見据え、交通の結節点である飯田駅のまちなか誘客拠点としての機能を充実させることにより、「人々の交流によるにぎわいの回復」を図る。平成26年度に「第17回2014年『まちの活性化・都市デザイン競技』」を飯田駅とその周辺地域をテーマに募集した。

②. りんご並木周辺商業施設等整備事業（事業主体名：(株)飯田まちづくりカンパニー）

事業完了時期	平成30年度【実施中】
事業概要	りんご並木ストリートマネジメント計画に基づき、りんご並木周辺の空き店舗等を中心市街地に投資意欲を持つ民間事業者とマッチングさせることで有効活用を図る。
事業効果及び進捗状況	りんご並木を中心とするストリートマネジメントにおける食遊文化機能、複合的開発マネジメントエリアにおける住まい・生活福祉・行政サービス機能、既存商店街エリアにおける物販・飲食機能とが相互に相乗効果を生み出し、集客効果がより高まることが見込まれる。平成26年11月には、空き店舗を活用した「並木横丁いこいこ」がオープンし、新たな賑わいを見せている。

③. まちなかの回遊性を創出する事業

（事業主体名：飯田市、NPO いいだ応援ネットイデア、NPO 飯田人形劇センター）

事業完了時期	平成30年度【実施中】
事業概要	飯田駅前にある「駅前案内所」、りんご並木周辺にある「まちなかインフォメーション」を活用し、りんご並木賑わいづくり事業など5つの事業によって回遊性創出を図る。
事業効果及び進捗状況	りんご並木賑わいづくり事業、人形劇のまちづくり推進事業、観光資源開発とネットワーク事業、まちなか観光推進事業、まちなか情報発信事業の5つの事業により中心市街地に訪れる人たちの回遊性を創出することで、市街地全体の活性を図る。また、情報発信することで来街者の増加を図る。

④. まちなか健康福祉拠点活用事業（事業主体名：(株)なみき）

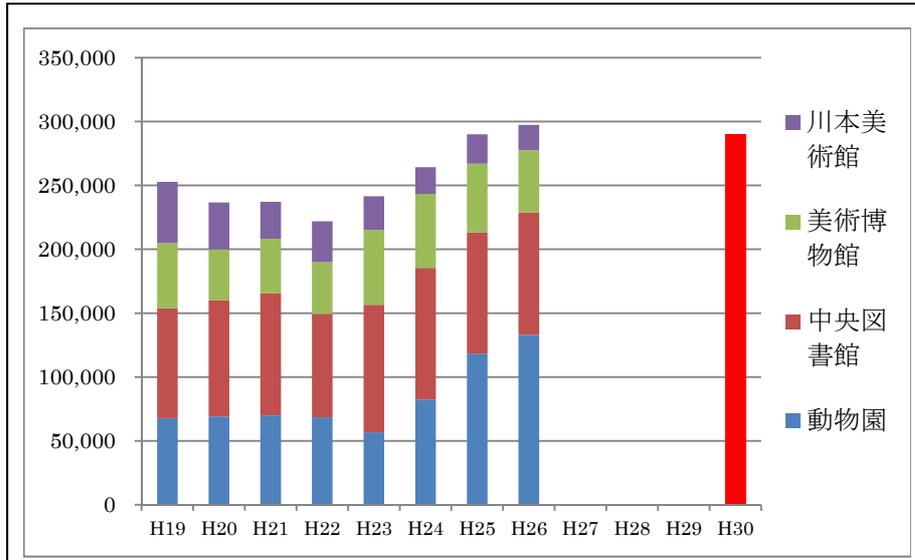
事業完了時期	平成30年度【実施中】
事業概要	銀座堀端ビル等を拠点とし、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康・福祉データベース機能、子育て支援のため整備した拠点を活用する。
事業効果及び進捗状況	銀座堀端ビルでは健康福祉サービスを提供しており、今後の事業展開や各種教室など事業の拡大により、近隣住民だけでなく市街地外からの来訪者も期待できる。平成26年度中にも多くの利用者があり、市街地の賑わいに寄与した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能だと思われる。今後も事業の詳細を検討しながら、より多くの賑わいをつくっていきたい。

●調査結果の推移（地域の魅力再発見による文化的な暮らしの創造）

「文化・交流施設の利用者数（年間）」※目標設定の考え方基本計画 P106～P108 参照



年	(単位：人／年)
H24	264,000 (基準年値)
H26	297,341
H27	
H28	
H29	
H30	290,000 (目標値)

※調査方法：各施設担当者より聞き取り

※調査月：平成27年4月（平成26年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：川本喜八郎人形美術館、飯田市美術博物館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 文化的・商業的イベント実施事業

（事業主体名：飯田市、飯田商工会議所、飯田やまびこマーチ実行委員会、

オーケストラと友に音楽祭実行委員会、獅子舞フェスティバル実行委員会、お練りまつり実行委員会）

事業完了時期	平成30年度【実施中】
事業概要	やまびこマーチ、オーケストラと友に音楽祭等の文化事業やイベントを継続的に実施するとともに、新しいまちなかイベントや文化事業などを創出、実施していく。
事業効果及び進捗状況	各種事業、イベント等を通じ、多くの人々が市街地を訪れてくれる。平成26年度中は、それぞれの事業、イベントを盛大に行うことができ、多くの人々が市街地を訪れてくれ、市街地の賑わいに寄与した。

②. 美術博物館改修事業（事業主体名：飯田市）

事業完了時期	平成30年度【未】
事業概要	美術博物館常設展示室の全面改修と展示物更新について検討・実施する。
事業効果及び進捗状況	常設展示室の改修と展示物の更新について検討・実施することで、春草作品を中心とした飯田市の文化・芸術や自然・風土について発信し、より多くの来場者に訪れてもらうようにする。平成29年度から着手予定。

③. 地域ミュージアムを活かしたまちづくり事業（事業主体名：飯田市）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	美術博物館、まちづくり委員会、地域商店街等が連携し、地域全体をミュージアムと捉え、知的交流拠点となるまちなかの創出、回遊性を向上させるソフト事業を実施する。
事業効果及び進捗状況	美術博物館のプラネタリウムにおいて地域の自然、文化、歴史などを題材にしたオリジナルの番組を制作、上映することで、目標に掲げている「地域の魅力再発見による文化的な暮らしの創造」の実現に寄与した。また、橋北まちづくり委員会が中心で進めている「橋北まるごと博物館推進事業」や橋北・東野地区合同で進めている「桜並木とまちづくりを考える懇談会」、飯田駅前・中央通りの商店街で実施した「高校生ウィンドウ作品展」などの活動も展開してきた。

④. 扇町公園（動物園）活用事業（事業主体名：環境文化教育機構（株））

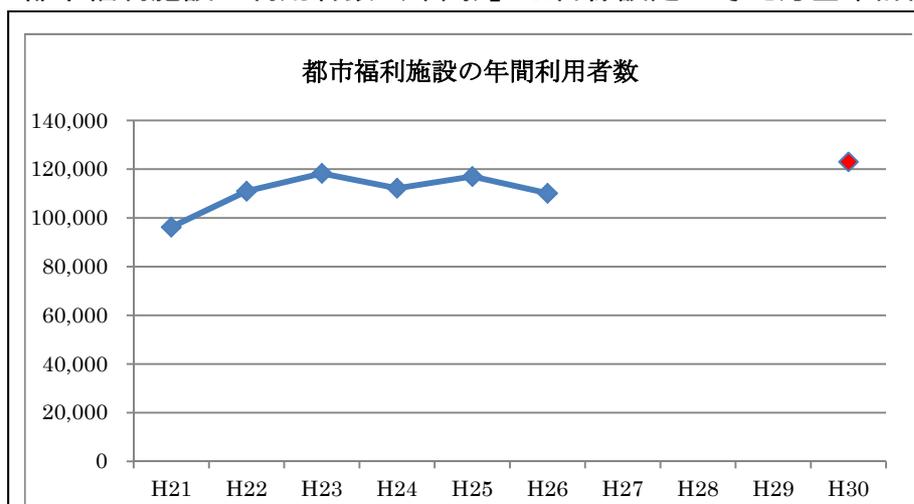
事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	再整備された動物園を活用しながら、様々な体験教室、講座を実施したり、公園全体を使ったイベントの実施や、他の文化施設、商業施設等と連携した事業を実施する。
事業効果及び進捗状況	再整備された動物園を有効活用した事業の展開により、平成 26 年度に動物園は過去最高の入場者数を記録した。また、電気小型バス運行事業等と連携することで、動物園を起点とした人の流れを生み出すことができ、市街地の賑わいに寄与した。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業はおおむね順調に推移しているが、一部の文化施設で来場者の減が続いており、目標が達成できない可能性がある。来場者が減となっている施設に係る事業内容について見直しを図りながら進めていき、中心市街地への外来者増を図っていく必要がある。

●調査結果の推移（環境に配慮し、安心安全な暮らしの実現）

「都市福利施設の利用者数（年間）」※目標設定の考え方基本計画 P109～P111 参照



年	(単位：人/日)
H24	112,000 (基準年値)
H26	110,107
H27	
H28	
H29	
H30	123,000 (目標値)

※調査方法：各施設担当者より聞き取り

※調査月：平成 27 年 4 月（平成 26 年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：飯田市公民館、りんご庁舎、おしゃべりサラダ、カーブス、(株)なみき

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

④. まちなか健康福祉拠点活用事業（事業主体名：（株）なみき）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	銀座堀端ビル等を拠点とし、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康・福祉データバンク機能、子育て支援のため整備した拠点を活用する。
事業効果及び進捗状況	銀座堀端ビルでは健康福祉サービスを提供しており、今後の事業展開や各種教室など事業の拡大により、近隣住民だけでなく市街地外からの来訪者も期待できる。平成 26 年度中にも多くの利用者があり、市街地の賑わいに寄与した。

②. 環境配慮型まちづくり事業（事業主体名：飯田市、おひさま進歩エネルギー（株））

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	りんご並木のエコハウスなどを活用し、環境に配慮した豊かな住まい方を提案したり、低炭素社会実現のためのまちづくりを学んだりする場を提供する。
事業効果及び進捗状況	再生可能エネルギーの活用、エネルギーの地産地消、低炭素な生活について関心を持ってもらういい機会となっており、環境配慮型のまちづくりの一助となっている。また、橋北地区において、酒蔵跡地の利用を検討しているが、その際に環境に配慮した利用について研究を進めている。

③. まちなか住宅開発事業

（事業主体名：（株）飯田まちづくりカンパニー、おひさま進歩エネルギー（株））

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	暮らしやすいまちを創造するため、これまでのまちなかの居住の成果を継承しつつ、環境に配慮し、且つ人の暮らしに合った効率のよい集合住宅等の開発を研究・実施する。
事業効果及び進捗状況	この事業を通じた研究・開発は、目標に掲げている「環境に配慮し、安心安全な暮らしの実現」に大きく貢献することが期待できる。

④. 旧飯田測候所活用事業（事業主体名：飯田市）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	歴史的建築物としての外観を復元しつつ、旧飯田測候所の歴史、飯田市の環境施策の情報発信及び集会室等の設置によるコミュニティ活動の拠点化を図る。
事業効果及び進捗状況	旧飯田測候所は、歴史的建築物ということだけでなく、古くから地域の気象観測の拠点として四季の移り変わりなどの発信地であった。今後は情報の発信とコミュニティ活動の拠点としての役割を担うことで、目標に掲げている「環境に配慮し、安心安全な暮らしの実現」に大きく貢献することが期待できる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業はおおむね順調に推移しており、目標達成は可能だと考える。福利施設の年間利用者数は前年対比で減っている施設もあるが、減少傾向が続いているわけではない。今後もさらに民間活力を大いに活かしながら、それぞれの事業を精査しつつ進めていき、目標達成に寄与していきたい。

